

サン・マイクロシステムズ

NTT データとユーティリティ・コンピューティングを含むデータセンター・サービスの分野で提携

インターネットに代表される近年のシステム開発は、急激なビジネスの拡大や一時的なアクセスの集中などによる負荷への対応が重要な課題となっており、可能な限り初期投資を抑えて、事業リスクやITの費用対効果をコントロールしていきたいという要求が強まっている。サン・マイクロシステムズは、このような要求を踏まえて、急激なビジネス拡大時のシステムへの過負荷によるサービス不能や利用制限等による機会損失の防止や、性能問題から生じる設計・運用時の複雑なシステム管理からの解放などを達成するために、NTTデータとユーティリティ・コンピューティングを含むデータセンター・サービスの分野で提携した。ユーティリティ・コンピューティングは、コンピュータ・システムを利用するユーザーがサーバやストレージなどのコンピュータ資源の使用量に応じて料金を支払う従量制課金型のサービスである。例えば、携帯電話のように基本料と実際の利用料を組み合わせることで、利用実体に即した効率的な投資が可能になる。本提携は、NTTデータのシステムインテグレーション力とデータ通信サービス分野での長年の実績、サン・マイクロシステムズが推進するユーティリティ・プログラムやネットワーク・コンピューティングの技術を組み合わせることで、より柔軟で質の高いサービスの実現を目指していく。 TEL : 03-5717-5717

OSDL

AISの実装を目的としたSA ForumのオープンソースLinuxプロジェクト「OpenAIS」の開発を共同サポート

エンタープライズ・コンピューティングにおいてLinuxの採用加速に取り組むグローバルコンソーシアム「オープン・ソース・デベロップメント・ラボ(OSDL)」は、通信業界における高可用性ネットワーク基盤に向けたSA Forum (Service Availability Forum) のAIS (Application Interface Specification) の実装を目的としたオープンソースLinuxプロジェクト「OpenAIS」の共同開発をサポートすることを発表した。

OpenAISは、SA Forumおよび同メンバー企業各社の積極的なサポートにより開発されている。同プロジェクトは、キャリアグレードLinux(CGL)のインタフェース仕様の実用例となり、Service

Availabilityミドルウェアとキャリアグレードアプリケーションの商用サービスベンダーによる、AISの持続的な実装に貢献している。CGL要求定義である「OSDL Carrier Grade Linux Requirements Definition」のv2.0では、SA ForumのAISのサポートを記述している。OpenAISは、ネットワークおよびシステム障害があった場合にも、最高(99.9999)の稼働可能なオペレーションを可能にするソフトウェア製品を提供することを目指しており、具体的には、ネットワーク障害中のサービス維持を可能にする6つのAPI (Application Programming Interface) を定義している。 TEL : 03-5288-8777

日本NCR

データウェアハウス・ソリューション「Teradata Warehouse 8.0」を発売

日本NCRは、データウェアハウス本来の機能をさらに強化し、企業活動におけるビジネスプロセスと連動して活用できるようにしたデータウェアハウス・ソリューション、「Teradata Warehouse 8.0 (TW8.0)」の出荷を開始した。

製品やサービスのライフサイクルの短縮、スピードの向上に伴い、ビジネス上での意思決定は益々複雑化、短縮化の傾向にある。変化に迅速に対応する正しい意思決定には「精度」の高いデータが必要不可欠であり、データウェアハウスが最も活用されている分野である。TW8.0の機能強化の大きなポイントは、ここに「鮮度」という考えを更に加えた点である。データウェアハウスは、従来、

過去の流れを踏まえ今後を推測するような戦略立案処理のために多くの場合利用されてきた。今後もこの点が重要であるのに変わりはないが、TW8.0では、現場で発生している情報をリアルタイムで収集し、過去の履歴と照らし合わせながら、より高度な意思決定ができるよう機能強化を行い、トップから現場における様々な意思決定ニーズに対して、1つのプラットフォームで的確に対応していくことを実現した。また、リアルタイム性の強化に加えイベント検知、それに伴うアクションの自動化など、「イベントベース処理」機能も強化していることで、ビジネスプロセスの迅速化、高度化を容易に実現することができる。

TEL : 03-6430-1850

日本 HP

Linux システムの容易で 確実な導入をサポートする 技術情報を提供

企業でのLinuxシステムの導入が進むにつれ、ユーザーが利用できるハードウェア、ソフトウェア、アプリケーションなども拡大している。その一方で、組み合わせや選択肢が複雑になり、互換性やシステム全体の整合性を検証した情報が十分ないため、Linuxによるシステム構成が難しいという声も生じている。このようなニーズに応えるために、日本ヒューレット・パッカーは、Linuxシステムの容易で確実な導入をサポートする「Linux Reference Architecture (LRA)」を、2004年11月16日より同社のWebページを中心に公開した。LRAは、技術的な検証結果に基づき、Linuxシステム全体を構成する製品・ソリューションの組み合わせを提示する枠組みである。対象は、オープンソースソフトウェアから高い信頼性が求められるミッションクリティカル領域の利用をカバーするクラスタソフトウェアから、バックアップソフトウェア、管理ツール、アプリケーションサーバ、データベースなどの広範な製品である。また、サーバ、ストレージ、ハードウェア、Linux OS、アプリケーション、ミドルウェアなどの組み合わせだけでなく、システム全体として機能するかを検証し、最適な組み合わせの技術情報を提供することで導入時のリスクを最小限に抑えて、Linuxシステムの迅速な導入と安定稼働を目的としている。

TEL : 03-5304-6777

日立システムアンドサービス

オープンソース導入コンサルテーションサービスを提供開始

Linuxに代表されるオープンソースソフトウェアは、導入コストの削減や特定メーカーの戦略に対する独立というメリットから、企業システムでの主要な選択肢の一つとして注目されている。その一方で、機能や品質の多様なオープンソースソフトウェアの選別・適用可否の判断は利用者側の自己責任であり、導入時に高い技術力が必要なのが懸念材料となっている。このような課題を解決するために、日立システムアンドサービスは、オープンソースソフトウェア関連のサービスメニューを拡充し、既存のサービスに加えて、多様なプロジェクトからのソフトウェアの選択、オープンソースソフトウェ

アの提供する機能範囲とシステム要求範囲のマッチング、複数のオープンソースソフトウェアに対する組み合わせの検証など、オープンソースソフトウェアによるシステム構築を支援するコンサルテーションサービス「オープンソース導入コンサルテーションサービス」の販売を開始した。また、UNIX環境からLinux / オープンソースソフトウェア環境への移行を対象とした「Linux / オープンソース移行診断サービス」、オープンソースソフトウェアに対する機能評価・組み合わせ検証・性能検証を実施する「オープンソース評価・検証サービス」の販売も同時に開始した。 TEL : 03-6718-5803

ウインドリバー

通信事業者向けネットワーク機器の開発を支援する Linux ベースのプラットフォームを発表

ウインドリバーは、Linuxベースのプラットフォーム「Wind River Platform for Network Equipment, Linux Edition」を発表した。同プラットフォームは、Linux カーネル 2.6をベースに、OSDLのキャリアグレードLinux (CGL) 2.01仕様をサポートし、通信事業者向けハイエンドネットワーク機器の仕様に対応したプラットフォームである。特に、無線インフラシステム、ソフトスイッチ、メディアゲートウェイ、DSLAM、ケーブルヘッドエンド、マルチサービススイッチ、光ファイバスイッチ、コアラーターなどの機器の制御・管理システムの開発に適しており、また、モ

ジュラー型通信プラットフォーム向けの仕様であるATCA (Advanced Telecom Computing Architecture) など、新たな標準もサポートしている。OSDLの最高技術責任者のティム・ウィサム氏は「OSDLのCGLは、今日のネットワーク機器に要求される可用性、冗長性、拡張性、安全性に優れたLinuxベースのソリューション開発を支援する仕様です。同プラットフォームは、CGL仕様と一貫性があり、複数のプロジェクト、マルチOS環境というネットワーク機器メーカーの開発ニーズに応えることで、機器メーカーのLinux戦略を支援します」と語っている。

TEL : 03-5778-6001

日本シーベル

エンドツーエンドのエンタープライズBIソリューションによる新戦略を発表

ビジネスアプリケーションのリーディングプロバイダーであるシーベル社は、革新的なクロスエンタープライズBIソリューション製品群を提供する包括的な新戦略「Siebel Enterprise Analytic Applications」を発表した。同新戦略をベースとした製品は、顧客分析、財務分析、社員/従業員パフォーマンス管理、およびサプライチェーン/サプライヤ分析という4つの主要な領域に分類されている。これらの製品は、単独での導入が可能だが、SAP、Oracleアプリケーション、PeopleSoft、およびシーベル社などの業務システムとの連動や連携を可能にする機能があらかじめ組み込まれている。今回の製品開発は、

シーベル社が各業界をリードする顧客企業、主要コンサルティング会社の専門家、および最先端テクノロジー・パートナーとの密接な連携により実現したもので、完全な構築済み分析ソリューションとして、各トピックスや業界に特化したベストプラクティスおよび技術メソッドロジーが組み込まれている。シーベル社のCEOであるマイク・ローリー氏は、「BIは企業活動の全てから最大の価値を引き出すために不可欠なものになっています。今回の当社の戦略と製品は、CRMの分野を超えて純粋に次世代のBIを求める市場のニーズに応えていくという姿勢を強調することを意味します」と語っている。 TEL：03-5464-7700

ベリタスソフトウェア

アプリケーションパフォーマンス管理ソリューション「VERITAS i³ v.7」を発表

巨大化と複雑化が進む今日の企業のシステムは、アプリケーションのパフォーマンス低下のリスクにさらされている。特にコマースサイトの運用などにおいては、システムのパフォーマンス低下は、ビジネス機会、企業信頼の損失につながってしまう。しかし、アプリケーション、データベース、サーバ、ネットワークといった各コンポーネントが一体となった現在のシステムでは、問題箇所の特定は非常に困難なうえ、複数ベンダーの管理ツールの使用方法を覚えなければならないため、多大な時間と人的コストを要してしまう。このような背景の中、問題箇所を特定し、解決のための提案を行い、高度なシステ

ムの適正管理をサポートするアプリケーションパフォーマンス管理(APM)ソリューションのニーズが高まっている。ベリタスソフトウェアの「VERITAS i³」は、国内市場で既に200社以上の導入実績を誇るAPMソリューションである。今回発表された「VERITAS i³ v.7」は、従来のパフォーマンス管理に加えて、アプリケーションのアベイラビリティに関する問題や原因についての分析・解析の提案を行う機能などが追加されている。また、SAP、Oracle、SQL Server、J2EEなどのさまざまなアプリケーション環境ごとにパッケージ化した「VERITAS i³ v.7アプリケーション対応パッケージ」も同時に発表された。

TEL：03-5532-8243

ボーランド

Win32 と.NET Framework をサポートする

「Delphi 2005」の出荷を開始

アプリケーション構築ライフサイクルを包括的にサポートする、プラットフォームに依存しない開発および運用プラットフォームを提供するボーランドは、Win32、.NET Frameworkの双方をサポートし、Delphi言語とC#言語を利用できる、Windowsプラットフォーム向けの完全な統合環境「Borland Delphi 2005 (Delphi 2005)」日本語版の出荷を、2004年12月6日より開始した。

現在、.NETへの移行が進む一方で、引き続きWin32上のアプリケーション開発の需要は多く、今後もWindowsでの開発が継続していくことは間違いない。Delphi 2005は、Windows開発の効率化を徹底的に追求すると同時に、必要に応じてWindows開発者が既存のアプリケーションやスキルを無駄にすることなく.NETへスムーズに移行できるよう、単一のIDE内で、Win32と.NETの両プラットフォーム、DelphiおよびC#言語をサポートしている。また、モデルドリブン開発のフレームワーク「Enterprise Core Objects II (エンタープライズ・コア・オブジェクトII)」の搭載、リファクタリングやユニットテストのサポートをはじめとした機能強化のほか、変更管理・構成管理ツール「Borland StarTeam」も完全に組み込まれ、開発者個人とチームの生産性向上を強力にサポートする製品である。

TEL：03-4560-1100

日本ネットワーク・アライアンス

エンタープライズ・ストレージ・ソフトウェアの最新版 「Data ONTAP 7G」を提供開始

日本ネットワーク・アライアンスは、エンタープライズ・ストレージ・ソフトウェアの最新版「Data ONTAP 7G」の提供を開始した。同製品は、「ストレージ・グリッド」構想の普及を目指す会社にとって大変重要な製品であり、「ストレージ・グリッド」を実現させる製品を国内で発表するのは、今回が初めてである。

Data ONTAP 7Gは、世界初のダイナミック仮想化エンジンの採用により、物理ストレージ・コンポーネントと論理ストレージ・コンポーネントとをまとめ上げ、高機能かつ自己最適化能力を備えたストレージ・プールを作ることを実現した製品である。また、デー

タ管理の精度をユーザーのデータセットに応じたレベルに設定することも可能である。このData ONTAP 7Gの高度な仮想化機能によって、ストレージ稼働率を倍増させ、エンタープライズ規模で使用されるアプリケーションのI/Oパフォーマンスを飛躍的に向上させるとともに、複数のアプリケーション環境のためのストレージの管理コストを低減することができる。また、きめの細かいデータを自動的に管理するビルトイン・ロジックによって、ストレージ・リソースをプール化し、さらに、システムの稼働中でも、ストレージ要件の変化に応じてその容量を調節することができる。 TEL : 03-5251-3747

日本ユニシス

最新64ビットインテルItanium 2 プロセッサ搭載モデル 「ES7000/400」シリーズの販売を開始

日本ユニシスは、同社の「Unisys Enterprise Server ES7000」に、最新64ビットプロセッサ「インテル Itanium 2 プロセッサ 1.6GHz」を搭載した「ES7000/400シリーズ」4機種の販売を開始した。ES7000は、Microsoft Windows 2000 Datacenter Server機能を最大限利用できるWindowsサーバとして、99.99%以上の高可用性を実現し、数多くのミッションクリティカル・システムに採用されている。また、複数の金融機関にも採用が決定し、フルバンキング基幹システムに要求される最高水準の高信頼性・高可用性を実現するプロジェクトが進行中である。ES7000/400シリーズは、ミッションクリ

ティカル基幹システムが求めるメインフレームクラスの処理性能、信頼性、可用性を実現する大規模システム向け64ビットプロセッサ対応サーバである。今回は、搭載可能なプロセッサの数により、「ES7000/410」、「ES7000/420」、「ES7000/430」、「ES7000/440」が提供された。日本ユニシスでは、既に最新64ビットバージョンMicrosoft Windows Server 2003とMicrosoft SQL Server 2000 Enterprise Edition(64bit)との完全な64ビット環境において、金融機関向け勘定系業務モデルを用いた実証実験を行い、大規模システムに必要なパフォーマンスが十分に得られることを実証している。

E-mail : es-box@unisys.co.jp

沖電気工業

コンタクトセンタシステム 「CTstage 4i」のオペレータ 席数を最大1,000席に拡張

沖電気工業は、同社のコンタクトセンタ向けCTIサーバシステム「CTstage 4i for .NET」ソフトスイッチモデルの性能を強化し、IPコンタクトセンタにおける最大のオペレータ席数を1,000席へ拡張した。この大規模化に伴い、管理機能を強化するとともに、セキュリティや高品質な通話をサポートするサービスウェア「VoIPセキュリティ設計/構築/支援サービス」を新たに追加した。同サービスは、セキュリティを維持しながら高品質な音声を実現するためのネットワークの設計・構築をサポートするものである。

CTstage 4iの最新バージョンのCTstage 4iソフトスイッチモデルは、IPコンタクトセンタシステムを他社に先駆けて実現し、既に多くの企業に導入され、高い評価を獲得している。今回、高まる大規模なIPコンタクトセンタのニーズに対応するために、同製品の性能を強化することで、最大オペレータ席数を、従来の300席から1,000席へと大幅に拡張した。この大規模化にあたり、オペレータ端末の設定情報に関する検索機能の利便性向上や、一覧表示の高速化、インポート・エクスポート機能など、1,000人のオペレータを効率的に管理するための機能が追加された。

なお、本機能を実現した「CTstage 4i」ソフトスイッチモデルの出荷は、2005年2月から行うことになっている。 TEL : 0120-490-988

ITX イー・グローバレッジ

世界最速 NAS ソリューション「ExaStore EX シリーズ」の販売を開始

ITXの100%出資会社であるITX イー・グローバレッジは、米国Exanet社のマスター・ディストリビュータとして、同社が開発したハードウェア・ベースのNASソリューション「ExaStore EX シリーズ」の販売を開始した。ExaStore EXシリーズは、グリッド・ストレージ・アーキテクチャに基づいた革新的なNAS OSであるExaStore (Version2.0)をインストールしたクラスター構成のノード・ユニットとストレージ・サブシステムをパッケージ化した製品である。2ノード構成のEX200FCと4ノード構成のEX400FC、そして6ノード構成のEX600FCからなる3つの製品ラインが用意されており、1ノードについて

2.8GHzのIntel Xeonを2個、8GBのメモリ、ギガビット・イーサネットを4ポート備えている。なお、販売開始に先立って行われたベンチマーク・テストでは、6ノード構成のEX600FC(1ノードあたりIntel Xeon 3.2GHz×2個、メモリ12GB/トータルで12CPU、メモリ72GB)は、業界標準のベンチマーク・テストSEPC sfsで世界最速の203,182 OPS (Operation per Second)を記録した。さらにEX600FCは、連続読み込み(Sequential Read)ベンチマークでも1.2GB/秒を達成している。この記録は、2004年11月現在公表されているシングル・ファイル・システムの記録としては最も速い値である。TEL:03-6412-6024

アイコム

IP 電話システム内で活用できるモバイル仕様の無線IP 電話を発売

アイコムは、IP電話システム内で活用できるモバイル仕様のワイヤレスIPフォン(携帯型)「VP-43」を12月中旬から発売する。

IP電話は、データ通信回線に音声通信を載せることで通話料金等のランニングコストを軽減できるため、今後、爆発的な普及が見込まれている。これまで市場にあるIP電話機器の多くは有線接続対応だが、無線で音声通信が可能なIP電話子機の需要が高まっている。今回、アイコムが発売するワイヤレスIPフォンVP-43は、IP電話システム内の携帯型無線子機として、外線/内線通話に対応している。その他の特長として、「暗号化セキュリティはWEPを搭載」、「Webブラウザから本

体設定が可能」、「小型・軽量のスタイリッシュボディ」などがあげられる。また、無線IP電話の親機として、同社の無線LANルータ「SR-5200VoIP」、その無線子機としてVP-43を導入することで、ワイヤレスで18系統のIP電話通話を実現することが可能である。

TEL:06-6792-4949



東京エレクトロン

無償トライアルキャンペーン「データドメイン・チャレンジプログラム」を開始

東京エレクトロンは、米国データドメイン社のディスクベース・リカバリーアプリケーション「DD200 Restorer」を、ユーザー企業が1ヶ月間無償で利用できるトライアルキャンペーン「データドメイン・チャレンジプログラム」を開始した。DD200 Restorerは、独自の圧縮機能によりバックアップデータを平均20分の1に高圧縮することができ、ディスク装置でありながらテープ装置並みの容量コストを実現した製品である。また、ディスクベースの利点をフルに生かした高速なバックアップ、リストアにより、データリカバリー時間を著しく短縮した。このようなメリットを実際にユーザー企業が体感できるよう、東京エレクトロンは、既存のストレージ環境に「DD200 Restorer」を組み込むキャンペーンを企画した。増え続けるデータのバックアップとリストアは、企業にとって重要な事柄だが、同時に日々の管理工数とコストの削減も重要な課題である。東京エレクトロンは、「同キャンペーンにより、企業がリカバリー専用アプリケーションによる管理パフォーマンスの向上とコスト削減のメリットを実感できる機会を提供したい」と語っている。なお同キャンペーンは、システムインテグレータ経由で2004年12月1日より2005年3月31日まで実施される。

TEL:03-5561-7277